

# 入善 報 廣

NYUZEN



水キラキラ  
町イキイキ入善

No.457

編集・発行 富山県入善町役場総務課

〒939-06 富山県下新川郡入善町入膳3255 ☎0765(72)1100 FAX0765(74)0067



## 戦後50年 今は「和」のとき

かつて国と国とが対立し、見えぬ相手を互いに憎しみ合う、そんな悲しい時代がありました。生徒諸君、君たちはその時代のことを知っていますか。今は、いろいろな国の人々と交流し、理解しあえる、まさに「和」のとき。過去の時代の真実を知り、改めて「和」の重みを感じてください。そして、自分たちの手で「和」を守り育ててください。

写真/オレゴン教育訪問団6月22日～26日米町。入善高校の授業で「和」という漢字に挑戦。

# 8

AUGUST 1995

### ◇◇ 主な内容 ◇◇

- 特集/戦後50周年企画  
心から伝えたい言葉心に刻みたい言葉「平和」………2～9  
カメラトピックス………10～11  
豪雨で大きな被害………12  
私たちの広場………14～15  
インフォメーション………16～17  
健康と福祉………18～19



# たい言葉



平和

# たい言葉



# 心から伝え



▲かすりにもんぺ姿の語り部らがいろりを使って、戦中戦後の食料の乏しい時代に食べた、玄米だけで作る「どろ」づくりを披露。



# 心に刻み

今年には戦後50年という節目の年。今、私たちは戦争のない平和な社会に暮らしています。時代の流れの中に埋没しつつある戦争体験、貴重な歴史の証言を将来を担う子供たちに伝え、永久に戦争のない社会を築くために、改めて平和について考えてみたいと思います。

広報入善では、戦後50周年企画として、5人の戦争体験者が語り部になって、中学生たちに戦中戦後の思いを伝える「戦争を語り継ぐ集い」を7月8日、栢山いろり館で開催しました。語り部の、戦争体験から生まれてくる「心から伝えたい言葉、心に刻みたい言葉」―平和への祈り―を生徒たちの感想を交えながら紹介します。



# 知ってほしい。

# なぜ戦争が起きたのが

清水 望さん  
(舟見中学3年生)

## 戦争を起こさぬ使命感

忠君愛国などといひ男子は兵隊、女子は身を削って働く軍国主義のもと、幼い頃からお国のためと教えられ、尊い命を捨てなければならぬことがあってはならないと思います。私たちが戦争を起こさぬためにはまず、政府がしっかりする必要があります。今日の話を中心に留め、将来、私たちの時代になったとき、政治にできるだけ参加し、戦争を二度と起こさないように、しっかりと政策を立てることが私たちの使命だと思います。

私が生まれたのは大正12年。その頃は第1次世界大戦が終わり、非常に不景気で生活に困る人々が世界中にあふれていた時代でした。お金がない、ものが売れない、仕事がない。日本の国では、少しでも豊かな生活をしようと海外に仕事を求めて朝鮮、中国、台湾、ブラジルなどに移民をしていったのです。

当時は欧米諸国がアジアの国々を植民地化していました。その中に日本が進出していく。当然、守る国と進出する国の二つのグループが生まれ、双方の国益が激しくぶつかり合います。その解決の最後の手段が戦争だったのです。

戦争を解決の手段に選ばば、当然国力を強くしなければなりません。教育でも、強い心と体を持つ子供を育てようと、小学校が国民学校に変わりました。小さな頃から国のために男の子は兵隊に行き、女の子は一生懸命働くのが当然だと教えられました。

戦前の日本は貧しく、そして子供の数も多かった。幼くとも、親の代わりに年下の兄弟の世話をし、小学校6年生で工



昭和18年、出征を前に教えた子たちと写す。もう二度とこの子たちには会えないと思った一。

浦山 義一さん  
(72歳・舟見)

大学卒業後、教職に就く。昭和18年から中国大陸などで兵役。富山で終戦を迎える。元陸軍少尉。

場に働きに出る子が多くいました。また満州(現中国東北地方)に開拓団として渡る者、兵隊に志願する少年たちも。どれもがそれを当然だと思っていました。忠君愛国、全ての国民が国のためを第一とし、自分のことは後回しにする考えが国を包み、戦争へと進んでいったのです。

いざ戦争が始まると、国民生活は厳しくなりました。働き手の若者が戦地に行き、米を作る人がいなくなり。戦地へ物資を送らなければならぬ。子供たちは農家で勤労奉仕をしたものです。B29による空襲が都市を襲い始めると、子供たちは田舎へ学童疎開しました。食料や衣類などが乏しくなり、大根の葉まで食べ、飢えをしのいだ苦しい時代でした。

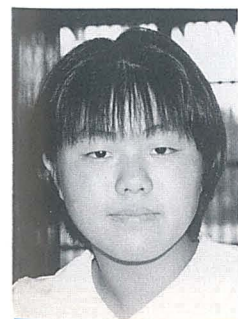
私は昭和18年、20歳で兵隊になり、中国大陸に渡りました。東京と富山の空襲で生地獄も体験しました。あまりにも多くの人が死んだ不幸な時代でした。皆さん、戦争とはどうして起こるのか、戦争という悲しい時代が二度と来ないようにするために何が大切かを考えてください。



私たちは平和な時代に生まれ育ってきたけど、語り部の皆さんは、戦争という悲惨な時代を生きてきたということを知り、本当に私たちは幸せだと思いました。今日は学校でも勉強していいことを知ることができて大変いい経験をさせてもらいました。これから私たちは、戦争という悲惨なことを引き起こしては行けないということを改めて思いました。平和を大切に築いていきたいと思っています。

## 勉強で知らない事実

扇原 智恵さん  
(入善中学3年生)







愛場 一立さん  
(72歳・上野)

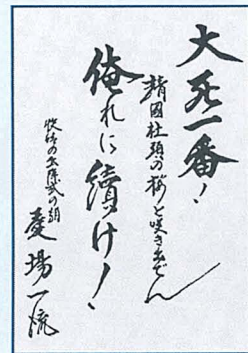
大学卒業後、教職に就く。昭和18年から東南アジア諸国で兵役。石川県七尾で終戦を迎える。元陸軍中尉。

## 板川由希子さん 平和を自分たちの手で

実際に戦争を経験した人たちの話を聞いて、本当に今は幸せな時代だと思いました。また、以前よりもっと自分の戦争に対する考えが深まったと思います。国のために自ら命を断つ。爆弾をもって敵の陣地へ飛び込むなんて考えもできないことです。このような時代の過ちを二度と繰り返さないように次の世代、また次の世代へと伝えていき、戦争のない平和な世界を自分たちの手でつくっていきたいと思いました。



戦前戦中、男は20歳になると丘隊検査を受け、兵隊となりました。私は、金沢の部隊に入隊し、満州へ渡りました。船で日本を離れ、日本の地が見えなくなる頃には、国のために死ぬ覚悟をしました。満州に上陸し、目的地にたどり着いたのは数日後の真夜中。戦地によりやく到着したと思ったとたん、敵兵の襲撃を受けました。激しくなる射撃に応戦。初めての实战に恐怖が走り、肩を並べて射っていた戦友に声を掛けると反応がない。彼は頭を打ち抜かれ死んでいました。「死」というものがとても簡単なものだと感じました。敵の射った弾があと40発こちらに来ていれば、自分がやられていた。戦友の遺体を火葬し、骨を拾いながら、「これが戦争か」と実感しました。



香川県豊浜の予備士官学校（特攻12期生）で、卒業時に全員が書いた遺書。遺書にならなかった遺書である。

その後、中国大陸を南下し、マレー半島、シンガポールに移動。昭和18年の終わり頃は、日本軍はジャングルの中を逃げ惑うだけでした。歩きながら退却していると、歩けなくなった落後者に出会います。彼らは一つずつ手榴弾をもらいます。敵が来れば自分もろとも爆破させる。そういう姿を何人も見てきました。兵隊が常に携帯する水筒には、いかなる場合にも水を少し残しておけ、と教えられました。この水が死ぬ間際に飲む、末期の水になるわけです。こうした戦場で金沢の部隊1万8千人の内、1万2千人の人が死んでいった。戦争とはむごいものなのです。

アメリカが科学力を結集し、原子爆弾を開発している頃、日本の軍部は特攻隊というものを考え出しました。爆弾を抱えて飛行機や船で敵に体当たりする捨身戦法。出撃すれば必ず死ぬのです。私は、昭和19年秋、日本に戻り予備士官学校に入隊。そこで特攻の訓練を受けました。ある日、友人に出撃命令が下り、みんな「おめでとー」と言いました。でも、だれが友の死の宣告を祝うことなどできるでしょうか。

自分たちが犠牲となり国民を守ろうとした時代。あまりにも悲しい戦争。どうかこの事実を心に刻み、伝えてください。

お話を聞いて、戦争の苦しみがどれほど痛々しいものなのか少し分かりました。私が特に驚いたのは、小さな頃から男の子も女の子も働き、そして、大きくなったら国のために尽くすことが当然だったということ。また、自分を犠牲にし戦場に向かうということは、死を告知されたと同じ、生きる希望を閉ざしてしまう、本当に遣り切れない気持ちだったと思います。今日の話も、やがて生まれてくる自分の子供に聞かせてあげます。

芦崎 道子さん  
(入善西中学3年生)

## 将来、自分の子に聞かせたい

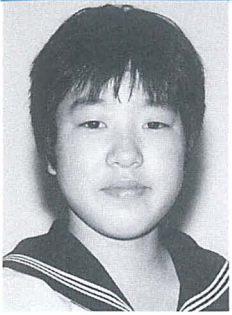


あまりにもむごい戦争。  
この事実を心に刻んで



知らない世代へ語り継ぐ 秋田千佳子さん  
(舟見中学3年生)

5人の方の戦争の体験談を聞いて、改めて戦争の恐ろしさを知りました。私は戦争を知りません。平和な時代に生まれました。今日の話はそんな私にとってびっくりすることや驚いたことが多かったです。50年経っても今なお胸が痛むという寺林さんの言葉を聞いて、二度と恐ろしい戦争が起こらないように、戦争の恐ろしさを人々が忘れないうちに平和を願って、戦争を知らない世代の人々に語り継いでいきたいと思ひます。



持っていました。しかし、勤めの人たちは私のお金を売って現金は持っていました。しかし、勤めの人たちは

生み出したのです。現在の問題になっている中国残留孤児を

夫は兵隊に行っていました。疎開した所は錦州でした。それ

の着のままで2人の子供と両親と5人で疎開しました。その時、

人々の反日感情をあらわにします。自分たちを支配し続けた日本人の

生活を送っていたのです。しかし、昭和20年8月15日の敗

征から満州に暮らし、日本人がほとんどいない街で、満州の人々と仲良く平和な

大連に渡りました。夫は錦州省朝陽(現遼寧省錦州市朝陽)という街で、写真館を営んでいました。夫の父は日露戦争出征から満州に暮らし、日本人がほとん



寺林みつゑさん  
(76歳・入膳)

昭和13年、旧満州で写真館を営む寺林晋氏に嫁ぐ。終戦から約10か月間の疎開生活の後、日本へ帰る。

戦争が終わり50年。  
今なお続く心の痛み

は現金を持っていません。貯金があっても下ろすことなどできないのです。お金がなく、子供たちに与える食べ物を買うことができず、栄養失調のため、毎日毎日、小さな子供たちがガクン、ガクンとやせ細り、ろうそくのものもし火が消えるように息絶えていきました。そんな状況の中



朝陽で、夫、晋氏が撮った写真。このラマ寺院の正面に寺林写真館があった。

に会いたいと思うのは当然です。戦争は絶対に起こしてはいけません。私たちが家族は運よく日本に引き揚げてきました。もし、あの疎開生活で子供を手放していたら、きっと我が子が私を探すに違いありません。50年経った今も、残留孤児にとって戦争は終わっていないのです。それを思うと今だに胸が痛みます。

自分の子として育ててくれました。本当に偉いと思います。我が子として育てた子供に、年老いた養父母たちは真実を話します。日本人であることを知った人たちが、日本に帰りたい、本当の父母、兄弟

満州の人々は、日本人の子供を自分の子として育ててくれました。本当に偉いと思います。我が子として育てた子供に、年老いた養父母たちは真実を話します。日本人

中で親たちは、我が子だけは死なせたくないという思いで、満州の人々に自分の子供を預けたのです。満州の人々は、日本人の子供を

前々から戦争について祖父母から多少聞いたことがありましたが、他人事のようにしか考えられませんでした。今日、いろいろな面からの戦争体験を聞いて、この後、戦争を知らない人ばかりの社会になったとき、せめて自分だけでも、今日この場で聞いた貴重な話をたくさんの人に話して、言葉では言い表わせない戦争の怖さと平和の大切さを伝えていきたいと思ひました。私は、今日ここで聞いたことを一生忘れません。

一生忘れぬ戦争体験談 滝本智子さん  
(入善西中学3年生)





# 日本に連れて帰りたい 引き揚げ直前の夫の死。

野坂 幸代さん  
(入善西中学3年生)

## 体験者の心の痛み忘れない

空襲や戦地などの話を聞いて、戦争をいろいろな角度から知ることができとてもよかったです。特に食べ物の話で、現在では豊富で困ることなんて全然ないのに、戦争中はご飯も満足に食べられず餓死する人がいたなんて、とても考えられません。もっと食べ物を大切にしなければいけないし、それに合わせて戦争の恐ろしさや、戦争を体験した人たちの強い精神、人々の心の痛みを一生忘れてはいけないと思いました。



私は、昭和16年に満蒙開拓団として、先に満州に渡った夫の元に、3歳になる子供と一緒にきました。開拓団の村は間島省安図県満宝村(現吉林省安図市)。草が生い茂る土地を耕し水田にし、食料増産を図るのが開拓団の本分でした。しかし、気候と土地の条件が水稲には合わず、結局、水田はできませんでした。約75世帯が村をつくり、木柵などで城壁を造り、その中で日本人と満州の人々が一緒に暮らしていました。食事づくりや農作業などの共同生活を楽しんでいたのでした。

しかし、終戦になって地獄の生活が始まりました。私たちは村の中に引きこもり、引き上げの日まで約1年、ソ連軍などの監視のもと避難生活を続けました。ソ連兵や現地の人々による貴金属などの掠奪が毎日のようにありました。若い男の人は兵隊に行き、残っているものは40歳を越えた夫とほんの数人だけです。ソ連兵たちは、掠奪するものがなくなると、若い女性を奪おうとやってきました。夫は掠奪を防ぐため抵



終戦後、外地からの引き揚げが続いた。心の中に悲しみを一杯つめて。

写真：北日本新聞社刊

「富山大百科事典」から

抗し、鉄砲で腕を射られました。診療所もすでに荒らされ、薬もありません。食料は本当に貧しいものでした。兵隊から帰ってきた男たちが、現地の人の家で土木作業などをし、どうにか食料を確保していました。それでも手に入る食料はアワやトウモロコシ、豆の絞りかす、食料がないため母親の乳が出なくなり、乳飲み子はみんなカエルを干したようになつて死んでいきました。

私も現地で生まれた1歳半の3男を餓死させてしまいました。今だに食べ物の大切さを痛いほど感じています。

夫は腕の傷が治り、働き続けたために栄養失調になつてしまいました。引き揚げ命令が出て、引き上げ船が出る葫蘆島(ハルカマ)にようやくたどり着いたときには、かなり衰弱し、病院船を待つ間に息を引き取ったのです。葬式もせず、病院の裏の丘に埋めてきました。連れて帰る場所がなかった。今、夫の眠る場所はどうなっているのでしょうか。

私にとって戦争とは、大切なものを奪われた悲しみ、苦しみです。

松岡 キクエさん  
(82歳・入膳)

昭和16年、満蒙開拓団として夫、与吉氏と長男と共に大陸へ渡る。終戦後、1年間で夫と3男を失い帰国。



鍋島 梢さん  
(入善中学3年生)

## 豊かな時代に感謝

戦時中の話を聞いて、当時のことがとてもよく分かりました。当時は食料がなくてそのために飢えて死んでいく人が何人もいたということを知り、大変驚きました。今の生活は食料が豊富な時代で餓死するなんてことはありえないと思います。戦争当時の苦しい生活を自分なりに思い描いてみると、食料だけでなく、日ごろの生活の中で使っているさまざまなものを大切に、豊かな時代に生まれたことを感謝したいと思います。





# 神戸大空襲で夫が死亡。

# 女手一つで子供を守る

三室カノエさん  
(81歳・青木)

昭和20年3月17日未明、神戸大空襲で夫、芳雄氏を失う。戦後女手一つで4人の子供たちを育て上げる。



戦後<sup>きずな</sup>を生きた家族の絆 寺島 梢さん  
(入善中学3年生)

お話を聞いて、戦争というものが二度とあってはならないものだと改めて感じました。戦争のために多くの人たちが犠牲になって、貧しい生活を送っていたなんて、今の私たちの生活と比べ、なんと大変な苦しみを味わってこられたのかと思います。でも、三室さんのようにどんなに辛くとも、子供のために一生懸命生きて人もいて、家族の絆というものを強く感じました。永久に平和が続けばいいなと心から思います。



私の夫は気象台に勤め、富山、水戸、そして、昭和18年4月から神戸の海洋気象台勤務となり、6人家族全員が神戸で暮らしていました。戦争は始まっていましたが、空襲など無かった頃です。日本の空にB29が飛ぶようになると、学童疎開が叫ばれ、長女を青木の実家に疎開させました。そして私も20年2月28日に、3人の息子たちと一緒に青木に戻り、夫の迎えを待ちました。

3月10日に東京、12日は大阪、そして14日には名古屋が空襲を受け、「次は神戸か」という声が聞こえてきました。官舎に全ての家財道具を残したままで、当面必要なものを取りに3月17日の朝、幼い三男をおぶって明石行き汽車に乗り込みました。汽車の中の、「神戸の空襲は大変だったね」という乗客の会話で、空襲を知りました。ようやくやく三ノ宮の駅に到着。地下にある駅から外に出ると、神戸の街が火の海です。急いで気象台に向かいました。気象台に着くと、すぐに地下壕に案内されました。そこには変わり果てた夫の姿が



空襲でなくなった芳雄さんをしのぶ数少ない遺品。この写真は富山気象台に勤めた二男が気象台で見つけた。

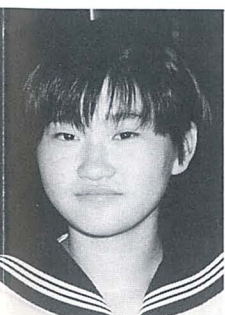
ありました。17日未明の空襲で気象台が被爆し、8人が亡くなったのです。官舎も灰となり、夫との生活をしのぶ全てのもので消え、涙すら出ませんでした。

夫の遺骨を抱き、28日によくやく大阪駅をたちました。富山市には夫の家がありました。しかしその時は、青木に帰れ」という夫の生前の言葉通り、青木に帰りました。父母を目の前に気が抜けたのか、私は泣いていました。それを見ていた子供たちが泣きだしました。私はこの子たちを育てるため、もう決して泣かないと心に誓ったのです。家族5人の生活のため、私は実家の農業を手伝うことにしました。男仕事を引き受け、馬を使い、田を耕しました。泥だらけになりながら子供たちを育てたい一心で働きました。

8月2日未明の富山空襲では夫の家も焼かれました。そして、8月15日に終戦の日を迎え、これで私の力だけで4人の子供たちを守ってやれるという気持ちになりました。平和の有り難さをひしひしと感じたものです。

平和な時代に生まれ育てられた私は本当に幸せです。この平和を伝えていくことが私たちのためになると思います。まだ戦争について知らない人たちにも理解を深めてもらいたいと思います。この前戦争のテレビを見たとき、とても恐ろしかった。本当に経験された方々は、恐ろしさも、むごさも、辛さも、悲しさもとてもよく分かっていらっしゃると思います。私たちは、今日のこの話をただ聞くだけで流してしまってははいけません。

戦争についてもっと理解を 辰尻美幸子さん  
(舟見中学3年生)





# 戦後50周年 各種行事案内

## ●入善町戦没者追悼式

町では、戦後50年記念事業として、戦没者に哀悼の意を表し、かつ恒久の平和を祈念するため、戦没者追悼式を挙行いたします。

- ◇日時 8月6日(日)10:00～
- ◇会場 入善コスモホール
- ◇問い合わせ先 町総務課  
☎72-1100 内線 211

## 〈戦後50周年事業〉

戦後50周年事業実行委員会、(財)町文化振興財団では、映画「月光の夏」上映会や戦前戦中を振り返る企画展などを開催します。

- ◇問い合わせ先 町民会館  
☎72-1105

## ●映画「月光の夏」上映会

- ◇日時  
8月11日(金) 19:00～21:20  
12日(土)①10:00～12:20  
②13:00～15:20  
③16:00～18:20  
④19:00～21:20

上映前に福井るりさんによるピアノ演奏「月光」があります。

- ◇会場 入善コスモホール
- ◇入場料

	前売り券	当日券
一般(大学生含む)	1,300円	1,600円
学生(小・中・高生) 60才以上	1,000円	1,300円 (但し、小学生は1,100円)
親 子	2,000円	2,300円

## ●戦後50周年展

戦前戦中の生活用品や戦争関連の遺品などを展示します。

- ◇会期 8月2日(水)～18日(金)
- ◇会場 町民会館ギャラリー



※会期中、実行委員などが解説員を務めます。

## ●〈ぞろ〉試食サービス

- ◇日時 8月12日(土)12:00～
- ◇会場 町民会館イベント広場

羽黒由香理さん  
(舟見中学3年生)

## 家族や友達に話したい

教科書で勉強するのとは違って、戦争の恐ろしさ、悲惨さ、その時代を生きていくための大変さ、辛さなどを知ることができました。そして、戦争は二度と起こしては行けないと思えました。男性も女性も子供も、全ての人々がその時代を生きぬくために闘い、そしてまだ現在も闘っている人がいるのだと強く感じました。私は家に帰ったら、また、学校に行ったら家族や友達に、今日聞いたことを話してあげたいと思います。



12人の中学生がいろいろを囲み、語り部の戦争体験を聞き、感想を述べ合った集い。また、昼食時には食料のない時代によく食べた玄米だけで作った「ぞろ」や「すいとん」を全員で食べながら、当時の生活などについて語り合いました。

語り尽くせぬ思いを、限られた時間の中で必死に伝えた語り部たち。回顧ではなく、過去の事実から将来を学ぶ平和の種をまきました。参加してくれた生徒たちは、戦争という歴史に興味を持ち集まってくれました。知識ではなく、生の声を心に刻み、平和の種を心の中で育て、永遠に美しい花を咲かせてくれるに違い

平和の種をまき続け  
永遠に美しく  
花開くことを願って



▲集いに参加した皆さん

ありません。  
今回の企画には、戦後50周年事業実行委員会などの協力をいただきました。  
●司会担当―長嶺林作さん(入膳)  
●食事担当―稲村光枝さん(下山)  
―広報担当―

私は学校の選択教科で社会の勉強をしています。選択教科の社会を選んだのは、戦争のことについて調べてみたかったからです。でも、図書室では調べてみても詳しいことが分からないので、とてもがっかりしていました。でも、今日ここでたくさんのお話を聞きました。本では知ることができない戦争中の人々の生活や、家族を失った悲しみ、まだまだ言い尽せないほどのことを知り、今日は私にとって最高の日になりました。

宝泉留美さん  
(入善中学3年生)

## 知りたかった戦争のこと







# カメラ

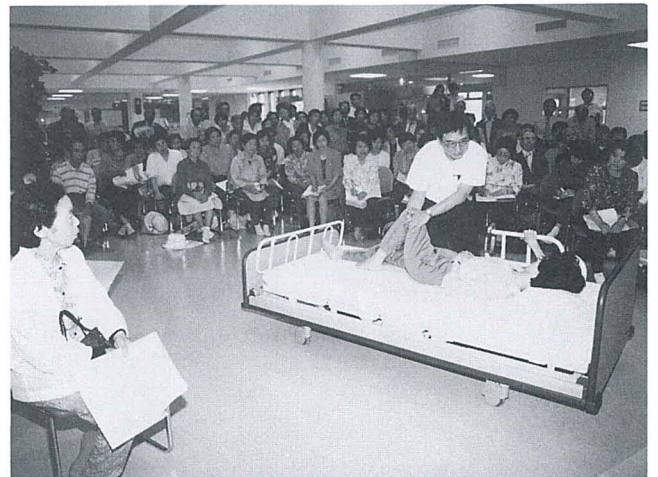
## トピックス とびつくす トピックス

### 短冊のトンネルを駆ける 舟見七タマラン大会

7月6日、7日の両日に行われた舟見七夕祭り。6日には恒例の七夕マラソン大会が開かれ、雨の中ランナーたちが色鮮やかに飾られた短冊のトンネルを駆け抜けました。大会には地区体協など16チームが出場。JA入善町舟見支所前をスタート地点に、1チーム5人（中学女子とPTAは10人）が18\*のコースをたすきリレーで競いました。団体は飯野地区体協、個人は福沢進さん（小摺戸体協）がそれぞれ優勝しました。

南部保育所の園児たちが、運動公園内の器具庫シャッター3枚に大壁画を完成させ、ジョギングなどで訪れる人たちの目を楽しませています。年長組の園児12人が、約1か月かけて描きました。絵の題材は子供たちが大好きな虫たち。大きな木を中心にカブト虫やチョウなどが飛び回る楽しい絵となりました。

### みんなでかきました 南部保シャッターに大壁画描く



### 寝たきり防止を学ぶ こぶしの庭で寝たきり老人ゼロキャラバン

寝たきり老人ゼロキャラバンが6月23日、老人保健施設「こぶしの庭」で開かれ、お年寄りら約200人が参加しました。県いきいき長寿財団などが主催し県内を巡回。介護やりハビリの実演指導、高齢者に優しい住宅の改造方法、痴ほうの原因と予防など、寝たきりにならない、させない知識を学びました。



黒東小学校の5、6年生の児童91人が7月7日、新川むつみ園を訪れ、七夕集会を開いて園生と交流しました。障害を持つ人への理解を深め、思いやりの心を育てようと開いたもので、昨年に引き続き2度目の開催です。児童たちは50人の園生と一緒に七夕の飾り付けやゲームを楽しみ、友達の輪を広げました。

## 友達の輪広がる

黒東小 新川むつみ園で七夕集会



## 自慢の玉ネギをどうぞ

たまめ  
玉女の会 入善玉ネギ初出荷

農村婦人グループ・玉女の会（鍵田節子代表）は6月27日、入善玉ネギ3トンをJA入善町野菜集出荷場から福井市のコープ北陸に向け初出荷しました。農家の主婦が集まり、野菜の特産化を目指し平成2年から取り組む玉ネギ作り。今年は会員18人が有機栽培で育てた自慢の玉ネギ40トンを消費者に届けます。



魚津市の木彫刻家、富山省三さんの個展「木ーそのいとおしきもの」が7月15日から、下山芸術の森・発電所美術館で始まりました。会期は9月17日まで。展覧会に先立ち7月8日から12日までの間、同美術館で公開制作が行われました。制作現場を開放し、作家や作品に触れ、芸術を身近に感じるきっかけにしておうと開いたもので、初日から数多くの家族連れらが訪れ、富山さんの制作過程を興味深く見学しました。

発電所美術館 富山省三展  
**芸術に触れて**  
富山さん制作現場を公開



## カメラトピックス

このコーナーでは、皆さんからの情報をお待ちしています。身近なできごとや地域の話などをお寄せください。

秘書広報係 ☎72-1100 内線 203





# 道が消えた 山が動いた



▲土砂崩れで道路が埋まる(舟見山)

## 7月11、12日の豪雨 入善町でも大きな被害

北陸、信越地方を中心に7月11日夜から12日にかけて降り続いた豪雨は、河川の氾濫や土砂崩れなど、各地に大きな被害をもたらしました。

入善町では、舟見地区の舟川沿いの林道舟見小川線が、舟川の増水で幅4分の1の道路が長さ20分以上にわたって崩れ落ち、通行不能となりました。また近くの舟見山では、舟見城址館に通じる道路が土砂崩れでふさがれました。

黒部川の増水により、墓ノ木自然公園内の園道が100以上にわたって削り取られたほか、板屋地内の堤防から地下水が多量に漏れ出し、地元の住民や消防団員ら約100人が、土のうを積み警戒に当たりました。

## 自然の猛威に日ごろからの備え

ひばり野小学校、下山芸術の森・発電所美術館で浸水がありましたが、民間の住宅などへの大きな被害、さらには人命にかかわる被害がなかったことは幸いです。自然の猛威に対し、日ごろから被害を最小限に止める訓練や、非常時の避難に対する備えが必要です。



▲濁流が道路を削り取った(舟見地区、舟川バーデン明日上流)



▲警戒流量の3倍を超えた黒部川



▲土のう積みを行う消防団員ら(板屋地区)

住所  
上野大森氏  
篤文  
住所  
舟見金山由美子氏

## ご結婚

(平成7.7.15届出まで)

住所	保護者	性別	名前
小摺戸	舟根隆男	男	航平
横山	住久誠男	男	航平
笹原	青島幸男	女	忍乃
上野	籠瀬健夫	女	智乃
青木	木田文夫	男	かなみ
舟見	建部久夫	女	かなみ
上野	笹原伸二	男	純
新屋	渡邊盛弘	男	昂也
入膳	鍋島昇	男	祥太
木根	小林泰治	男	拓未
入膳	水下一人	男	慶亮
舟見	山下有一	女	菜津子
新屋	山崎達矢	男	輝
入膳	米山昌之	女	真那
浦新	橋本武男	女	有紀
中山	長谷寿治	女	瑞妃
上飯野	青木嘉人	男	嘉暉
上飯野	青木嘉人	男	嘉暉
小杉	西島光浩	男	満朗
上野	上嶋光之	女	健太朗
入膳	南保暁	女	美希
入膳	四十物公紀	男	美智
入膳	田中謙二	男	直哉
入膳	田中謙二	男	舜也

## おめでた

(平成7.7.15届出まで)





## 見つめよう戦後50年

今年には終戦から50年の節目の年。この機会に戦争の悲惨さや平和の尊さを改めて見つめ直していただくため、図書館では戦争に関する図書を集めた特設コーナーを設けます。

新刊『写真・絵画集成 戦争と子どもたち(全6巻)』は、戦争の実相を伝える貴重な写真、絵画2,000点を収録したもので、子どもたちの目を通して戦争の本質に迫ります。海老名香葉子作『さくらいろのハンカチ』は、兄と2人戦争孤児になった作者が、自らの戦争体験を振り返り、人を思いやる優しい心の持ち主に育ってほしいと願います。他にもお勧めの本がずらり。夏休みは図書館へどうぞ。

8月15日、あの日が  
またやってきました



## 木漏れ日の風景

青木新門著  
北日本新聞社

## 話題の一冊

「納棺夫」という特異な仕事をしながら、生と死を真摯に見つめてきた詩人、青木新門が、人の心の優しさや美しい四季のうつろいを通して、本当の宗教の姿を優しく語った話題作。

挿し絵と装丁は北陸の代表的な人気画家、野上祇麿。



読書に親しむ朝日、入善、宇奈月の読書会グループの会員40人が6月27日、町民会館に一堂に会し合同読書会を開催。「裾を聞く」でとやま文学賞を受賞した田代久勝氏を講師に、読む喜びを再認識。

三町読書会入善に集う

図書館だより

## New Books 登場

- |                           |                       |                           |                        |
|---------------------------|-----------------------|---------------------------|------------------------|
| ■生きものたちの部屋<br>宮本 輝 新潮社    | ■九つの問答<br>司馬遼太郎 朝日新聞社 | ■アメリカ産業社会の盛衰<br>鈴木直次 岩波書店 | ■年金入門 新版<br>島田とみ子 岩波書店 |
| ■白鳥正宗刑事の事件帳<br>佐木隆三 中央公論社 | ■斑鳩王の慟哭<br>黒岩重吾 中央公論社 | ■黄落<br>佐江衆一 新潮社           | ■トラブルクッキング<br>群ようこ 集英社 |
| ■読むクスリ23<br>上前淳一郎 文芸春秋    | ■介子推<br>宮城谷昌光 講談社     | ■イブのおくれ毛<br>田辺聖子 文芸春秋     | ■とんぼ<br>伊集院静 講談社       |

届出はお早く  
出生届……14日以内  
死亡届……7日以内

本入舟五舟青下舟新青高入舟吉青舟上	住所
郎 飯	野 氏
村膳見八見木野見屋木畠膳見原木見野	名
本板西篇寺木塚三米廣围阪梨上野西羽	年
田谷尾原田田田賀山島本本木原澤尾場	令
庄政淳次フ信すし清定一加正臣へろ	世
79 73 17 79 95 81 87 78 91 73 74 76 91 82 95 88 83	帯
本本祐征本武秀本本本本本啓本	主
人人二人夫人久男人人人人人治人	人

おくやみ

(平成7・7・15届出まで)

上 野菅洞	直人 崇	朝日町 建部	千鳥
黒部市 小森	晃	朝日町 澤田	雪子
下飯野 志摩	哲	朝日町 高田	良子
福島 若島	将人	入 膳 上 高	暁 睦



# 私たちの広場

お父さんビールおいしい？



米山絵美ちゃん(新屋)

ご意見などを  
お寄せください

この広場は――

●ご意見 ●イラストやマンガ ●グループの紹介 ●私の趣味……などに利用したいと考えています。

紙上匿名は自由ですが、原稿には必ず住所・氏名を明記してください。

秘書広報係 ☎72-1100  
内線 203

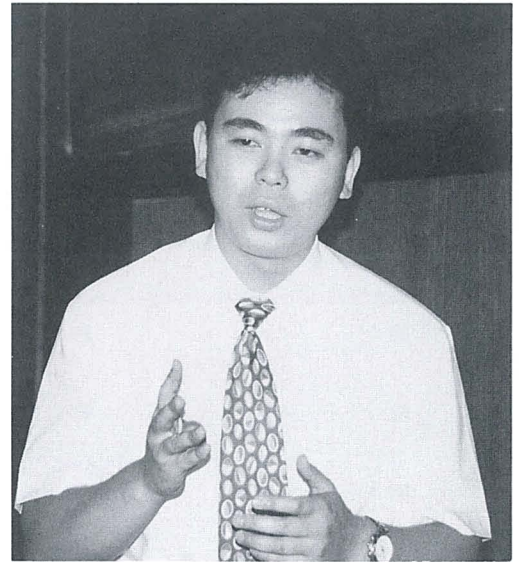
「町にはいくつものまちづくりを目的とした組織や団体があります。それらの団体の活動を相互に支援する体制を作り、それぞれが持つ特徴あるまちづくりのノウハウを学び合うというのが、オーラ入善設立の狙いです」と話す瓜生さん。



瓜生義寛さん  
(舟見・29歳)

「月に一度は定例会を開き情報交換や会員の交流促進を図ること。そして、町民向けの機関紙を定期的に発行して、町に親しみを増やしてもらい、まちづくり仲間を増やしていきたいですね」と、にこやかに話してくれました。

## 「オーラ入善」会長に就任



▲「オーラ」とはスペイン語で「こんにちは」の意味。「いつもさわやか、新鮮な活動をしたい」と瓜生さん。

**4日** ●ミス織姫入選者発表  
●企業対抗クイズでパラダイス  
19:00～ 商工会前

**5日** ●ジャンボスイカフェスティバル  
18:30～ 商工会前  
●郷土芸能の夕べ  
19:30～ 商工会前  
●阿波踊り大会 19:00～ 中央商店街

8月4日(金)～7日(月)

## 入善ふた七夕祭り

この夏 思いっきり 楽しみましょう

**6日** ●1000人ジャンケン大会  
19:00～ 商工会前

**7日** ●カラオケ選手権  
19:00～ 商工会前  
●入善音頭街流し  
20:00～ 中央商店街



グループ登場

# 廃品回収で団を活性化

## 新屋地区青年団

「山積みのごみを前にして、自分でもよくやったもんだと感心しました。青年団としては4年振りの廃品回収でしたが、予想以上の成果が上がったと思います。これをきっかけに、低迷している青年団活動を活性化していきたいですね」と話す新屋地区青年団長 米山達矢さん（向島・26歳）。新屋地区青年団は6月11日、



▲「廃品といっても、まだ使えるものがたくさん。これからは、不用品の再利用を考えた活動をしたいですね」と皆さん。

地区内の全世帯を対象に廃品回収を行いました。JA入善町新屋支所の倉庫前に集められた粗大ごみや資源ごみの量は、4トトラック10台分に上りました。

「青年団といっても5人だけ。活動停止状態が数年続いていました。なんとか地域に役立つ活動しようと思ひなで話し合った結果、以前は毎年行われていた廃品回収を復活させようということになったんです」と米山さん。

計画をOBに相談したところ、快い協力が得られ、また、団員の友人らの協力もあり、当日は30人が廃品回収に参加

「各家庭で『ありがとう』と声を掛けられ、とてもうれしく思いました。今回は、多くのかたの協力で無事終わることができました。今後多くの人に喜ばれる活動を、少人数でも続けていきたい」と、元気に話す団員の皆さんです。



福井るりさん  
(富山市・26歳)

## 平和への祈りを「月光」の調べに込めて

戦後50周年事業実行委員会（委員長―柚木春雄）が8月11日、12日の両日に上映する映画「月光の夏」。5回の上映会では、映画のプロローグとして、物語の主旋律となるベートーベンのソナタ第14番嬰ハ短調op. 27-2《月光》のピアノ演奏が行われます。このピアノ演奏を務めてくれるのが、富山市の新鋭ピアニスト、福井るりさんです。



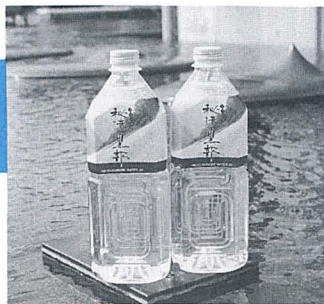
▲「コスモホールでリサイタルを開きたいですね。そのためにも今回は素敵な演奏をしたい」と話す福井るりさん。

るりさんは、7歳からピアノを始め、昭和58年桐朋学園高等部音楽科に進学し、63年にハンガリーのリスト音楽院に留学。2年前に帰国し、富山市を拠点に音楽活動を続けています。この6月21日には東京の音楽の友ホールで、若手演奏家を発掘、デビューさせる音楽之友社主催でリサイタルを開くなど、今後の活躍が期待されています。

るりさんの母親は、町出身の洋画家、福井年子さん。幼い頃からよく遊んだ入善での初演奏の前に、「コスモホールは演奏家にとって魅力的なホール。また、戦争や平和に対する強い気持ちがあり、今回の演奏をお受けしました。戦没者への鎮魂と平和への願いを込めて、精一杯演奏します」と話してくれました。

(2リットル入りボトル5本組・1,500円)

―手続きは町内の各郵便局へ―



# 町の名水を全国発送

入善町墓ノ木の農事組合法人「本田農場」が製造する天然水「秘境黒部」を、郵便局のふるさと小包みで全国各地にお届けします。

●問い合わせ先 新屋郵便局 ☎78-0990



# お知らせ

## 案内

金婚さん  
いらっしゃい



町では、めでたく金婚を迎えられたご夫婦をお祝いし、記念品を贈呈します。  
◆対象 昭和20年4月1日から21年3月31日までに婚姻され、現在、町にお住まいのご夫婦  
◆申し込み期限 8月18日(金)まで  
◆申し込み問い合わせ先 福祉課高齢福祉係 内線143

役場正面玄関の  
改修工事が始まります

町役場庁舎正面玄関自動ドア化改修工事に伴い、8月下旬から約3か月間、正面玄関の使用ができなくなります。来庁の際は、庁舎東側、西側の出入口をご利用ください。長期間ご迷惑をおかけしますが、ご協力をお願いいたします。

### レッツダンス 盆踊りの夕べ

町教育委員会では、「郷土民謡講座」の成果発表をかねて盆踊り大会を開きます。参加は自由。音頭とりの飛び入りや仮装も大歓迎です。

◆日時 8月10日(木) 午後7時～

◆場所 町民会館回廊イベント広場  
※先着400人のかたに、特製うちわをプレゼントします。

### 町民ふれあい 淡水魚つかみどり大会

黒部川内水面漁業協同組合入善支部では、この夏休み子供たちに自然に親しんでもらうため、墓ノ木自然公園内にイワナやヤマメ、ニジマスなどを放流し、つかみどり大会を開催します。

◆日時 8月15日(火) 午前10時～

◆対象 年齢制限なし(年別別に区画を区切り、つかみどりを行います)

◆参加費 無料

◆問い合わせ先 黒部川内水面漁協入善支部 ☎72-0663

### 県婦人就業センター 経理事務技術講習会開催

◆内容 日商簿記検定3級資格取得コース

◆期日 9月22日(金)～11月15日(水) 午前9時から午後3時まで 22回コース

◆会場 滑川市働く婦人の家

◆定員 20人

◆対象者 再就職を希望する主婦等

### 防災一口メモ

#### あつ、地震だ!

そのときどうする

— 屋外編 —

落下物から身を守るためビルや空き地などへすばやく避難しましょう。その場にしがみこむと危険です。

#### (ビル街)

●その場に立ち止まらず、頭をカバンなどで保護して近くの建物や空き地などへ避難する(ガラスの破片、看板など落下を回避)。  
●逃げる場所の判断をしっかりと(木造の建物や自動販売機、ブロック塀のそばなどは危険)。

#### (電車の車内)

●急停車するので、吊り革や手すりなどにしっかりつかまる。  
●電車が止まっても、勝手に車外に出ない。

#### (車を運転中)

●地震を感じたら徐々に速度を落とし、道路の左側に停車、エンジンを切る。  
●ラジオで地震情報を確認。  
●車を離れるときは必ずキーを付けたまま。

#### (海岸・がけ)

●すみやかに安全な場所へ避難する。海岸の場合は、高台などに避難し津波情報をよく聞く。

### ごみ

## お盆中のごみし尿の収集日

お盆期間中の

8月13日(日)～16日(水)は(休)

ごみ、し尿の収集業務を休ませていただきます。ごみは、休業期間中ごみステーションに出さないでください。皆さんのご協力をお願いします。

ただし、16日(水)の小摺戸、櫛山、横山地区の資源ごみ回収は、通常通り行います。

— 環境保健課 内線 153 —

### 年金たより

#### 老後まで考える 余裕がありません!?

国民年金の給付に必要な費用は、国民年金に加入している人がみんなで公平に負担します。

国民年金給付には、老齢基礎年金のほか、障害基礎年金、遺族基礎年金、寡婦年金があります。

あなたが不測の事故で障害者になり働けなくなった

ら、あるいは夫に先立たれて18歳未満の子供と生活するようになったら…。これは人事ではありません。今の生活を守るためにも保険料を納めることが大切です。また、国民の義務であることをご理解ください。うっかり納め忘れの防止には、口座振替をお勧めします。金融機関の口座から自動的に保険料が引き落とされますので、自分で納める手間も省けて便利です。



# INFORMATION

## 町の工事発注状況

500万円以上のもの

6月分



- ◆入善町武村福祉会館大ホール空調設備更新工事 1,748万円 (株)吉田工務店
- ◆県単独農村環境整備事業野中地区道路舗装工事 595万円 広川建設工業
- ◆入善漁港海岸保全施設整備(その3)工事 7,069万円 広川建設工業
- ◆入善漁港改修(その3)工事 11,124万円 飯作組
- ◆墓ノ木小杉線消雪用設備その1工事 692万円 西川管機株式会社
- ◆墓ノ木小杉線消雪用設備その2工事 768万円 新田配管工業
- ◆墓ノ木小杉線消雪配管その1工事 850万円 藤田工業
- ◆墓ノ木小杉線消雪配管その2工事 648万円 (有)飯田配管工業
- ◆東坪寺線外3路線舗装工事 1,030万円 広川建設工業
- ◆舟川環境整備事業駐車場舗装工事 566万円 広川建設工業
- ◆入善小学校外3校保健室エアコン設置工事 530万円 大田電気商会

- ◆受講料 無料(教材費別)
- ◆申し込み期間 8月22日(火)から9月5日(火)まで
- ◆申し込み先 滑川市就業相談コーナー ☎0766417515780
- ◆子供の人權  
近年、いじめや体罰、不登校児など、子供をめぐる人權問題が大きな社会問題となつています。法務省では人權擁護委員の中から、県下で5人の「子供の人權専門委員」を指名し、子供の人權を積極的に擁護することになりました。
- ◆前田貞子(富山市安野屋町1-9-16) ☎076641219340 ●長澤信次(富山市清水町8-3-10)

- ☎0766412510848
- 濱多善保(魚津市本町2-3-12) ☎2413669
- 石出宗俊(氷見市谷屋2-5-6) ☎07661761616 ●坂口邦俊(井波町北川1804) ☎076318210179
- お気軽にご相談ください。

## 募集

- ◆募集期間 8月1日(火)～10月31日(火)
- ◆応募方法 様式自由(文、絵、イラストなど)。個人、団体を問いません。郵送、FAXでご応募ください。
- ◆応募期間 8月1日(火)～10月31日(火)
- ◆応募資格 昭和50年4月2日から昭和53年4月1日までに生まれた人で、高等学校土木技術課程修了または平成8年3月31日までに修了見込みの人
- ◆募集期間 8月1日(火)～10月31日(火)
- ◆応募方法 様式自由(文、絵、イラストなど)。個人、団体を問いません。郵送、FAXでご応募ください。
- ◆応募期間 8月1日(火)～10月31日(火)

- ◆応募・問い合わせ先 〒930-80(郵便番号) 2000X年(で届きます) 2000X年 県民が燃えるプログラム委員会 ☎07664144196 FAX 0766414413
- ◆応募資格 小中学生を除く町在住者、勤務者、出身者で、作品は未発表のもの
- ◆撤入・申し込み先 町民会館窓口(備え付けの応募用紙に必要事項を記入のうえ、作品を10月3日(火)から15日(日)までに町民会館へ)
- ◆規格 日本画・洋画・版画は6号以上100号以内で、1人2点まで。書は全紙の3分の1以上3尺×6尺以内で額装、1人1点。写真は半切以上、組み写真は5枚以内、いずれもパネル張り金倍以内、1人2点まで。彫刻・工芸・陶芸は規格は自由、1人2点まで
- ◆問い合わせ先 町民会館 事務室 ☎7211105

## サマーフェスティバル in 入善

8月19日(土)、20日(日)開催

## さかなの港町同窓会

問い合わせ先 ●農林水産課 内線 317

- さかなの港町同窓会 13:00~ コスモホール (基調講演、港町おこしトーク)
- 19日 青少年体験研修・漁師と語る集い 14:00~ 園家山キャンプ場
- サマーナイトフェスティバル 19:00~ 園家野外舞台 (歌と舞踊の競演)
- 20日 定置網起こし見学会 9:00~ 入善漁港(芦崎地区)
- 海上遊覧船(要事前申込) 9:00~ 入善漁港(芦崎地区)
- 鮮魚直販・にぎわい広場 12:00~ 入善海岸(芦崎地区)





# 健康と福祉

入善町役場 072-1100  
健康センター 072-0343  
社会福祉協議会 072-5686

## 善意の窓

あたたかいご芳志に感謝いたします。

入善町善意銀行 6月11日～7月10日

### ◆社会福祉事業資金へ

(敬称略)

小摺戸	寺林 広昭	100,000	亡父徳政の供養として
入 膳	松岡 弘晃	100,000	亡父弘の供養として
入 膳	松原 幹治	50,000	亡母はなの供養として
入 膳	久郷 常平	100,000	亡妻百合子の供養として
富山県	移動商業組合	10,000	観音祭の収益金の一部として
舟 見	梨木 啓治	100,000	亡母へろの供養として
吉 原	西尾 昭義	100,000	亡母ユキの供養として
吉 原	上原 勝司	100,000	亡父榮清松の供養として
小摺戸	伊林まつい	100,000	米寿を記して
舟 見	三賀 隆弘	100,000	亡母しでの供養として
入 膳	匿名	20,000	5～6月分
萩の会	裏千家 宗勢	50,000	チャリティ茶会の収益金として
代表	荻浦 宗勢		

### ◆物品の部

平曾土地改良区女子職員一同	使用済記念切手
尾 山 春 江	雑巾100枚

### あなたの地区で「保健教室」を開催

テーマは『薬との上手なつきあい方』

- 講師 富山医薬大附属病院薬剤部 中川輝昭先生
- 日時 8月24日(木)午後1時30分～
- 場所 新屋地区下山公民館

テーマは『脳卒中について』

- 講師 黒部市民病院副院長 脳神経外科部長 沖 春海先生
- 日時 8月25日(金)午後7時30分～
- 場所 舟見コミュニティ公民館

参加は無料。どなたでも参加できます。詳しくは健康センターまで。

長)が取り組むわんぱく教室が6月24日、柗山小学校で開かれ、児童たちが視覚障害者

柗山地区公民館(島浅松館)ボランティア体験学習を行いました。障害を持つ人たちへの思いやりの心を育て、共に助け合

## 助け合いの心 大きく育て

柗山小で視覚障害者ボランティア体験学習



▲階段を恐る恐る降りる児童たち。障害者の立場で助け合うことの大切さを実感しました。

って暮らしていくことの大切さを学ぼうと開いたもので、小学1年生から6年生までの約50人が参加しました。児童たちは二人一組になり一人がアイマスクで目隠しをし、一人が誘導役となって校舎内を一回り。日ごろ使い慣れた校舎も、見えないというハンデに恐怖を感じ、恐る恐る足を運ぶ児童たち。また誘導役の児童も、歩く速度に注意したり、障害物の有無を早く教えてあげたりすることなど、相手の立場になって考えることの必要性を肌で感じていました。

## 健康宅配便

### おっぱいだいすき

先日行われた『パパの育児教室』。盛況のうち16組の参加がありました。お風呂の入れ方の実習では、たっぷりと冷や汗?をかいて、パパとしての実感をひしひしと...。私たちがめざす、安心して出産できる環境整備、ゆとりを持って楽しく子育てができる社会づくり。パパの育児参加は、身近なところからできるアクションの一つではないでしょうか。

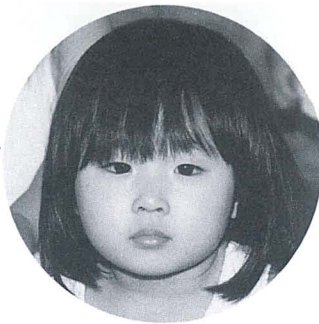
そんななかから生まれるゆとりが、こんな標語を  
「この胸に 吸いつく我が子を抱く度に つのる愛しさを 深まる絆」

昨年の「愛のメッセージ」母乳「作品コンクール」の作品です。

母乳で赤ちゃんを育てる喜びや、子育ての中での親子のふれあいの様子などを表現した作品を募集します。ポスター(4つ切り画用紙)、標語(一人1点)、写真(サービサイズ)で、子供の部(中学生以下)と一般の部があります。

8月末日まで健康センター





# 8月の健康ガイド

	内 容	日 時	場 所	対 象 等
予 防 接 種	三 種 混 合 (百日咳・ジフテ リア・破傷風)	11(金)13:15~14:20	健	入善、上原、青木地区
		23(水)13:30~14:00	舟	舟見、野中地区
		29(火)13:15~14:20	健	小摺戸、新屋、柗山、横山地区
		30(水)13:30~14:00	改	飯野改善センター 飯野地区
乳 幼 児 健 康 診 査	◎3 か月 健 診	24(木)13:00~14:00	健	H7.4.27~H7.5.23生まれ
	◎4 か月 健 診	23(水)13:00~14:00	健	H7.3.29~ H7.4.26生まれ 離乳食 指導・栄養士
	◎1歳6か月健診	18(金)13:00~14:00	健	H6.2月生まれ 歯ブラシ コップ持参 タオル
	◎2歳児歯科健診	8(火)13:00~14:00	健	H5.2月生まれ
	3 歳 児 健 診	25(金)13:00~14:00	健	H4.3月生まれ 尿検査有
相 談	健 康 相 談	4(金)13:15~14:15	健	希望者 医師による
		8(火)9:30~11:00	健	糖尿病食事 栄養士による
		7(月)13:15~14:15	老	希望者 医師による
		21(月)13:30~15:00	老	希望者 保健婦による
	子 育 て 相 談	17(木)13:30~16:30	児	就学前児童
教 室	母 親 相 談	22(火)13:00~13:20	健	妊婦とその家族
	機 能 訓 練 (リハビリ)	第1・2・3木曜日 9:30~15:00 第4木曜日 9:30~11:30	健	脳卒中後遺症の方

健…健康センター 舟…舟見コミュニティ公民館 老…老人福祉センター 児…児童館  
 ▶三種混合対象者 I期の初回…H5.9月~H6.8月生まれの乳幼児  
 (3回目) その他I期…初回(3回目)未接種の幼児(3~8週間隔で接種)  
 I期の追加…初回3回目完了後1年(365日)経過した幼児  
 ※◎印の健診には母子手帳、バスタオルを持参。※健康相談には健康手帳を持参。

## 一健康づくり市民のつどい あなたの骨をチェック! 『骨粗しょう症検診受診者募集』

- ◇日時 8月20日(日)受付 午前9時~11時30分
- ◇場所 入善町民会館
- ◇対象 おおむね65歳以下の女性(先着60人)
- ◇料金 2,300円



お申し込み問い合わせは、健康センターまでどうぞ

## Healthy Cooking

ふるさとの味

### 豆腐だんご

材料 5人分

- ◇白玉粉……………150g
- ◇絹豆腐……………120g
- ◇きな粉……………75g
- ◇砂糖……………40g
- ◇塩……………少々

〈作り方〉

- ① 白玉粉と豆腐をボールの中で混ぜ合わせる。硬いようなら水を少しずつ加え、耳たぶくらいの硬さになったらだんご状に丸めお湯の中でゆでる。
- ② ゆで上がっただんごにきな粉をまぶし出来上がり。

—食生活改善推進協議会—

## 新川地区 休日夜間急患医療センター

- 診療日 日曜日・祝日
- 診療科目 内科、小児科、外科
- 診療時間 19:00~23:00
- 所在地 黒部市消防署向側  
☎54-0731

+	日	医院名及び電話番号	
休 日 当 番 医	6(日)	山本クリニック ☎74-0110	河村歯科医院 ☎54-0210 黒部市
	13(日)	野島医院 ☎78-2300	北山歯科クリニック ☎56-8019 黒部市
	14(月)	通常開院日	島田歯科医院 ☎52-0167 黒部市
	15(火)	宝田医院 ☎74-2288	千代内科歯科医院 ☎52-1001 黒部市
	16(水)	加瀬医院 ☎74-0339	田中歯科医院 ☎56-8040 黒部市
	20(日)	新・宝田クリニック ☎72-0078	吉見歯科医院 ☎52-0449 黒部市
	27(日)	中川医院 ☎72-0336	平井歯科医院 ☎52-0727 黒部市

文・町保健婦



昨年の母乳作品コンクール  
奥村まゆみさん(氷見市)

へご持参ください。入賞作品は、「いきいきとやま第7回健康と長寿の祭典」にて展示されます。





# さわやか トーク ALK 大上真由子さん ( 梶 山 )

真由子さんは昭和49年5月28日生まれ。この春、京都府の短大を卒業し、富山市の北陸クロレタ食品(有)に就職しました。「会社では、経理事務を担当しています。アットホームな雰囲気の中で、楽しく働いています。外の人も接することができる営業などの仕事にも挑戦したいですね」と話す、とても素直なお嬢さんです。いま一番楽しいことは何ですか――

町の体育館のトレーニングルームやエアロビクスで汗を流すこと。心も体もすっきりして、気持ちいいですよ。

理想のタイプの男性は――

しっかりものでいて、どことなく少年のような心を持った人。

この町に暮らしてどう思いますか――

富山はおしゃれじゃないと思います。コンサートに行っていていい音楽を聴いて、その後、レストランで食事なんて、簡単にできないところが寂しいですね。

## 階段を下りたその先に

寂しさと清々<sup>すがすが</sup>しさが微妙に交錯する階段に夕陽が差し込み、窓の形で足元を照らしている。格子模様の床に降り注ぐ光は、滞った現実から夢の空想へと引き込む、ぼっかりと空いた窓のように、階段を下りたその先を照らしている。見下ろしていたはずの風景を見上げていくような、不思議な感覚を呼び起こす。

人は、様々な思いを一步步踏みしめながら、いくつもの階段を上り、そして下りてくる。辛いことがあると思わず、うつむいて足元を見ながら上ってしまう階段。それでも人は、希望に導かれるように行く先を見つめ、ひたすら上ってゆく強さも持ち合わせている。追い求めていたものに上り詰め、下りてくる頃には、意気揚々と駆けている。柔らかな光に満ちた階段で、その移ろいを肌で感じながら、日々ゆっくりと階段を上って行けたら、どんなに安らぐだろうか。階段を下りた先にある、光の指し示す何かに期待を寄せて、この水彩画に描かれた優しい風景に、つい見入ってしまったくなる。

「階段 #0」



Yobuko Satou (町所蔵作品から)

長谷川紀子作 (入善町出身、アメリカ在住) 水彩画 32×24号

文・町学芸員 長縄 宣

▼編集することは、なんと難しいことか。今回の特集記事を作りながら、つくづく感じたことでした。通常、企画記事を作るときは、ある程度のシナリオを考えて取材や座談会を行います。今回はゼロからの出発。戦争を知らない自分には、シナリオのない物語が始まるようで不安でした。▼20分という制限時間の中で皆さんは、まさしくシナリオのない物語、戦争という時代を生きてきた人生をしっかりと話してくださいました。その内容をいざ、記事にしようとする、書き尽くせぬ内容にどう編集してよいやら悩む毎日▼記事の出来、不出来は皆さんの判断に任せて、もっと話の内容を知りたい人は、8月に町民会館で開かれる「戦後50周年展」へ。語り部の数人が解説員を務めます。

### 編集室

人のうごき		平成7年6月末日現在
●人口	29,525人	[ -21 -53 ]
男	14,158人	[ + 2 + 6 ]
女	15,367人	[ -23 -59 ]
●世帯数	7,997戸	[ + 1 +36 ]

( )内 上段は前月比  
下段は前年同月比